

東京の木 『多摩産材』を知る

東京都の面積の4割は森林。その多くが人工林で、江戸時代より多摩の山の木材は江戸の大都市を作るために活用されてきました。戦後は輸入材に圧され住宅供給でもシェアが大きく下降しましたが、今再び東京の多摩の木に注目が集まっています。

多摩地域で生育し、生産された木材を一般的に「多摩産材」と呼びます。東京都はそのうち適正に管理された森林から生産され「多摩産材認証協議会」によって産地証明されたものを『多摩産材』として認証し流通させています。

この『多摩産材』を使うことは、適齢の木を材として伐採することで次世代の健全な育成になり、得た収益で森林の手入れもでき、東京の自然環境を守ることにもつながります。また地元で育った木は、材としても地域の気候に強い利点もあります。



『多摩産材』で家を建てる

地元で育った『多摩産材』の木のぬくもりと、住宅建築の快適最新技術が融合した2棟のモデルハウスは4月にOPEN予定。OPENに先駆けて『多摩産材』を直に見て触れていただくことのできる構造見学会を限定3日間、2月10日(土)、11日(日)、12日(祝)と開催します。無垢の木の香りが漂う建築現場をご覧ください。と思います。

木の香る多摩産材 三鷹展示場 2018年4月OPEN



東京の山を育てる林業家、良質な木材に加工する材木店、東京の木にこだわって家を建てる工務店が一体となった「TOKYO WOOD普及協会」では、定期的が多摩の森や製材所を巡り理解を深めるバスツアーを開催しています。写真は去年秋に行われたバスツアーの様子です。「TOKYO WOOD」は、多摩産材の中よりグレーディング検査を行い、独自の厳格な基準に合格した木材で、TOKYO WOOD普及協会の独自ブランド。合格した良質な木材には、ブランド名を冠した左写真のような印字がされます。

「何十年かけて手厚く育った木々が伐採されて終わるのではなく、その切株の隣に苗木が植えられ、命のリレーが続いていくことに喜びを感じました。そしてそのリレーを支えている人たちが繋がってTOKYO WOODというプロジェクトが動いていることに一番感動しました。TOKYO WOOD(多摩産材)で家を建てることで私たち夫婦もリレーの仲間になれたような気がして、とても嬉しいし、大変誇りに思っています。」(TOKYO WOODバスツアー参加者様アンケートより)



東京の森、東京の木、東京の家
TOKYO WOOD

お問い合わせ先 TOKYO WOOD普及協会事務局
(株)小嶋工務店 ☎️ 0120-79-5610
◆ (一社) TOKYO WOOD普及協会 <http://tokyowood.net/>
◆ (株) 小嶋工務店 <http://www.k-kojima.co.jp/>

多摩の木が分かる最新情報

2月10日(土)・11日(日)・12日(祝)
3日間限定開催

構造

見学会

参加者PRESENT



森から家に届ける
広報誌『森ノ報セ』



TOKYO WOOD
STORY



株式会社小嶋工務店
広報誌「こじみみ」